「神栖の未来を考える研究会」

提言内容（私案）

箱崎　芳雄

１．本提言の狙い

神栖市の知名度及びブランド力向上

神栖市
Kamisu city

２．現状の神栖市に対する認識

（１）Good Points

①気候が温暖である。（殆ど降雪がない）

②重要港湾・国際戦略バルク港湾である鹿島港を有している。

③日本で最も新しい、大型かつ集積度の高いコンビナートが立地している。

④市の財政が健全である。（茨城県トップクラス）

⑤人口が僅かながらも増加している。（茨城県の人口は減少）

⑥朝日、特に夕陽が大きく美しい。
（地平線に沈んでいく中東の夕陽のよう）

（２）Bad Points

①県外での神栖市の知名度が極めて低い。（ブランド価値が低い。）

②観光資源（自然、文化）に乏しい。

③地場の企業が育っていない。

④教育環境が悪い。（大学進学、スポーツ）

⑤医療機関、医師が少ない。

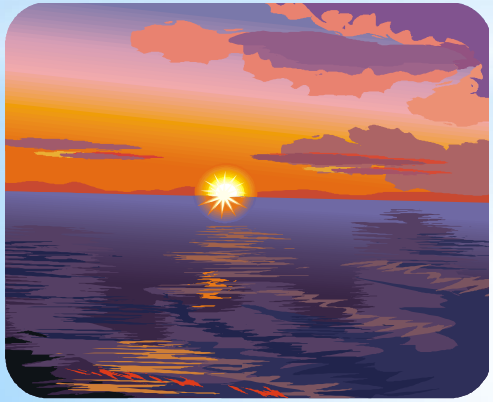
⑥行政、コンビナートの連携が不足している。

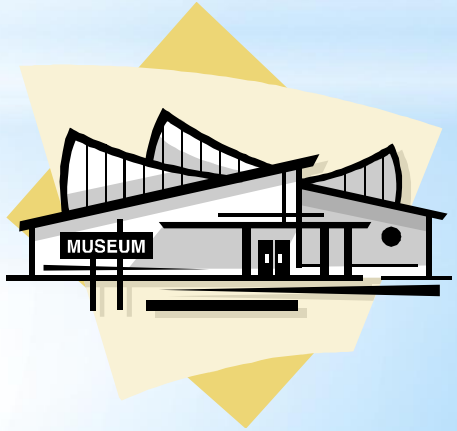
３．神栖市ブランド力向上へのスローガン

「産官学連携によるスポーツの振興と文化施設の充実」を図り、

→「美しい夕陽の町　そして
　スポーツと文化の薫り高い　神栖」

を積極的にＰＲ





４．ブランド力向上への施策（私案）

（１）<u>朝日、特に夕陽に美しさの訴求</u>

・日本で地平線に太陽が沈む地域は殆どない。
太田周辺で利根川から千葉県側に太陽が沈んでいく様は大きさ、色ともに絶景

・利根川沿いに夕陽の見える絶景スポットを選定しＰＲ

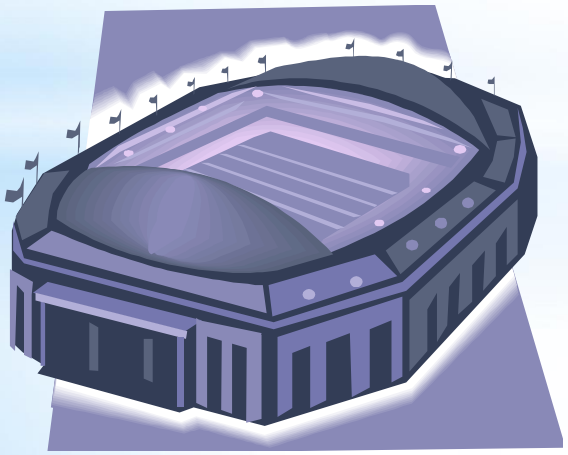
・神栖サンセット館（仮称）を建設しレストラン、道の駅的ショップを併設

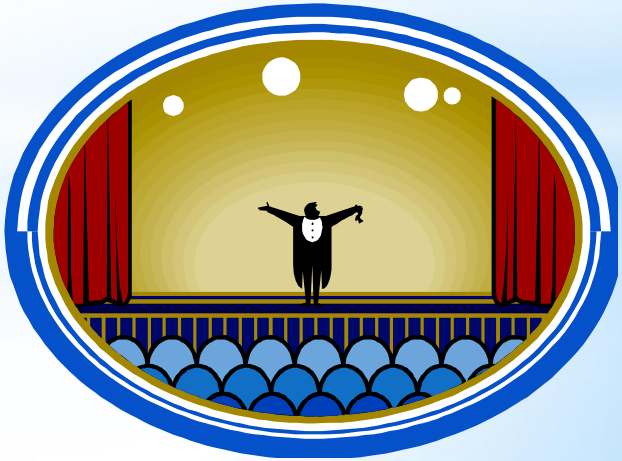
（２）神栖中央公園アリーナの充実

・コンセプトは内外の超一流アスリート、アーティストを招聘できる施設

・市民が利用することを主たる目的にするのではなく、市民がトップレベルのスポーツ、文化を観戦・鑑賞できることを主眼とする。

・神栖市外のみならず茨城県外からも集客できるハード・ソフト作り





（３）産官連携の強化

・神栖市とコンビナートの意見交換の場の頻度を高めるべき。

・各企業がＣＳＲを標榜するも地域社会のニーズを把握できていない。

・石油化学、石油精製ともに構造的に厳しい状況の中、国内の他コンビナートとの間で競争激化。生き残る上で産官の連携が不可欠。

終